

琉球大学学術リポジトリ

原稿 : 『植民及植民政策』 第十八章 植民政策の理想

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38377

矢内原忠雄文庫

史料名	原稿『植民及植民政策』第十八章 植民政策の理想(植784~818)
封筒番号	475
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月21日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 475

史料名	原稿『植民及植民政策』第十八章 植民政策の理想(植784~818)
資料形態	B4原稿用紙
枚数	35
页数	35
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	植民 今泉分類記号： Y

(+) ATHENA (4)

實質的
植民の
終極的
實現

第十八章 植民政策の理想

一 植民の理想的實現

二 各植民政策の理想

三 自主發展植民政策理想の實現

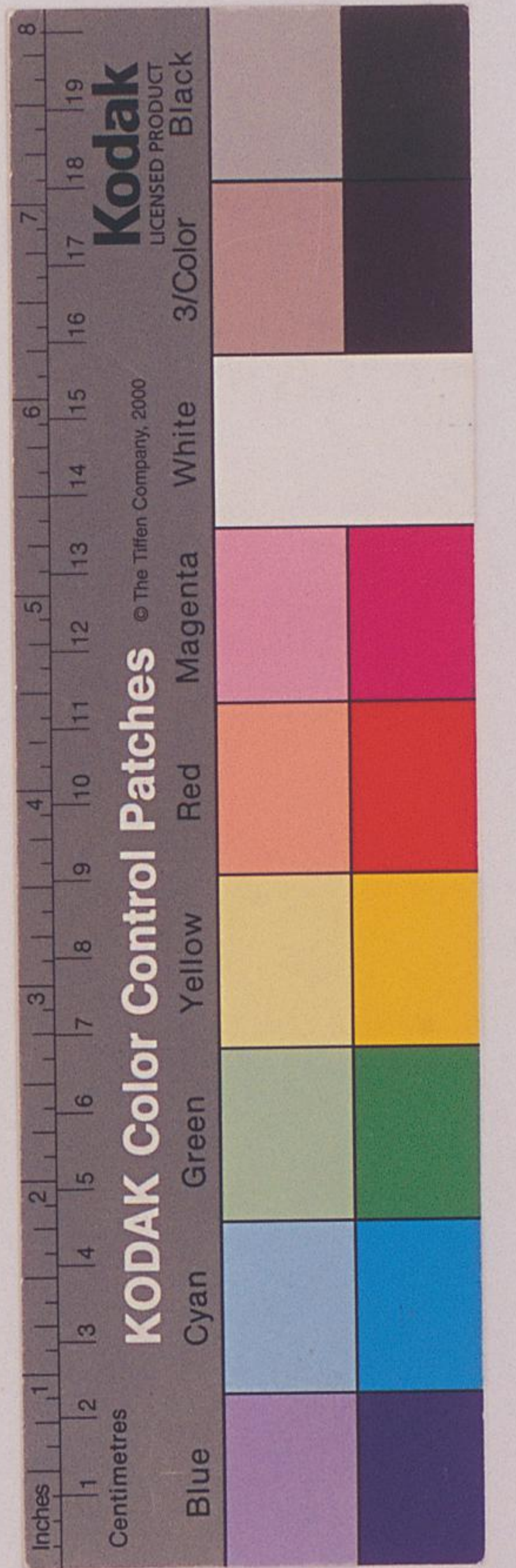
は新植
地を
保障

一
二
三

植民は實質的の意味に於ては新しき土地に於ける移住社会群の経済的社会的改働である。

斯くの如き意味に於ける植民は人類歴史の初期より繼續し、且つ苟くも経済的用途の餘地ある新日土地の地球上に存在する限り併せぬをあらう。且つ地球上各部の社会群の生存に關する社会的諸關係の異々限々、永久に執行はせらる。植民の理想的實現は地球上各部の餘すゑなき経済的利用にあり。して社会群の生存及び生活の必要は、その植民法御を要する。二の理想的實現の方向は、植民の向はる。三、あるものと見ると得る。現實植民改働の

植



1/12

人口及貨物移動の自由

灌漑植林等植民の技術的方面は之に劣る。文明人亦その資力と知識と勤勉とを以て未開地を墾張するのみならず、不健康地の氣候風土をも変化し之を居住適地と為す。「荒野とうろほひを」

き地とはたのしみ、沙漠はよろこびて番紅の花の如くに咲きかゞやき、盛に咲きかゞやきて喜び且つうたひ、レバノンの榮を得カルメル及びシヤロンの美しきを得ん」このイザヤの豫言は、植民政策の經濟的理想を暗示する。

2. 人口及貨物移動の自由。前記地球上の土地中東洋を以て利用に投ずる為めに、又

既に全地球の有用地を通過する如く用立てらるべき土地の利用を促進する可きためにも、人口及貨物移動の世界的自由を認めらるべき如き如きない。若し地球上の各地域相互間に旅行の經濟交通の自由が完全でなく、一地域に過剰な資力が及ぶ本他地域に移動することの制限せらるゝ一地域に於て生産せらるる良好な資材が他地域の利用に供せらるゝことが未だせらるゝ時は、世界經濟は完全に成立するを得ない。新渡戸博士は植民の終極目的は以て地球の

786 植

人化(即ちオイクメーネー)の地球世界的擴大及
 び人類の最高發展にありとし、この目的を「實
 現するに」は少くとも土地に就き、これは世界社会
 主義の實現を要すべし」と論じらる。蓋し地球
 上の土地の共同利用が世界を(国々)に認めらる
 べきとき、これは完全なる人口及び管轄の移動が實
 現せらるべきの故である。東洋聯盟の系統
 論規程は、それが日本とドイツに同じ、他の
 聯盟国の通商貿易に對する均等の機會の確保
 を要するものとす。左にこれに止まらる。

各國が各國領土に於ける實質的植民に就て
 均等の特等均等の待遇を得るは、亦世界經
 済の完全なる条件とせばなるべし。

植民治御の經濟的方面の理想的實現は世界
 經濟の分立にありとせば、この社會的方面の
 理想的實現は各種文化系統の渾然たる一大集
 成にあり、人類最高文化の實現にありとせば、
 吾らはい。蓋し各種文明は爛熟停滞するとき
 は、欲廢死滅する。各種文化系統は互に剋
 して、これにより、常に新鮮なる活力を得、更に

植
 7689

1) 新領土編造 植民の終極目的 (法學雜誌第三十一卷
 第十二号)

本に律を由るべきなり

實質的植民は國民の社會的生存の必要より起る。その邊境なる人口の一部が人口稀薄な
る他の地域に移住するは、当該社會群の生存
の必要條件在ると共に又世界經濟完成の一過
程である。併し地球上の各部分は何れも先
位社會群の巨額に属するの故に、他社會群の
占有地域に植民するの爲めには暴力によつて
侵入か或はその許諾の下に行はるゝ平和的移
住によらぬはなきなり。然るに植民社會群

の接觸は種々定額社會群に於て壓迫を意味す。若し先住者の社會的生存の必要により、若くは將來の必要に備ふるの爲め、その地域は凡そ自己に留保せんとせば外主者の植民は之を爲めに阻止せられる。例へば濠洲は其の條件に於て廣漠なる面積を擁し、其の土地に於ては隣邦人の侵入を拒否して居る。之れ國際的正義に合するものと云ふを得やうか。併し、同様に又隣邦諸國に於て社會的生存の必要を理由として濠洲を侵略し、これを征服して自己

の外は否、即ち植民地の征服有る事

788

道

の後身と受容せしむるの権利のありとあり
 か。海峽南洋の自らの南洋の委任士人を行
 版し強制して子孫に成せし地帯地帯ありた
 既に固有の領土に置きたる地帯地帯を支配す
 二、本邦南洋の正義に在りしよりあり
 中、思ふに南洋の自らの意思を強制して地帯
 占有地帯の自らの地帯地帯に在りしことの
 不義なる如く、委任者自らの自らの地帯地帯に
 地帯地帯を自らの社会的な自らの地帯地帯に
 自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に

言はぬ所なきに。然るは自らの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 期待し得るべき自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に

カントは永久の平和実現の一条件として世
 界的自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 ある地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に
 自らの自らの地帯地帯に在りしことの自らの地帯地帯に

6
 789
 植

権 (Gastrecht) にあらず、^新 接触 (Jugang) の権
 利にしこ入国 (Eingang) の権利にはあらず。故
 に外国人の渡航を拒否する鎖国も、又^外 諸島
 の例に於ける諸島の艦を越えせる征服も其
 に期待権は原則に反するものであらず。期待
 によりて回帰する平和的交通は成るものと為
 りてある。併し社会群生の要求は單に
 通商貿易による接触に止まらず、^得 経済
 交通の発展に伴ひ植民地^{轉位} 諸島を^得 社会的^得 事實
 とするを得^得 希^得 かり^得 存^得 人口過剰の社会群

1) Kant, J. Zum Ewigen Frieden, (Grossherzog Wilhelm
 Ernst Ausgabe Bd. V. S. 676-678.)

は豊饒なる未開地を有する社会群に於て
 單にその節制に於ける期待を要求しうるや
 ならず、^得 進^得 し^得 こと^得 確^得 立^得 したる^得 期待を要求
 し得^得 希^得 かり^得 存^得 人口過剰の社会群
 植民地の實質的^性 必要と、植民地征服^性 領有の不
 合理性、この矛盾衝突を解決せしむるに
 植民地の理想的實現は期待し得^得 希^得 かり^得 存^得 而してこ
 の解決は^有 機^得 的^得 結合^得 希^得 かり^得 存^得 人口過剰の社会群に
 ありては達成し得^得 希^得 かり^得 存^得 人口過剰の社会群に

790
 権

各社
の
主義

せられたる現世は世界社会群の統一的法則に
ある。

（本國地帯の統一法則に於て）
植民主義には従属主義、近代主義、及び自
主主義の別を立て得る。この各々の論理的社

致はいづれも世界社会群の統一的結合に在す
るが、その實現の可能性はつゞきつゞきに比較研
究するにあらう。

従属主義

1 従属主義的植民政策は力を以て（原住）社会群を自己に從属的に結合せしめんとするものである。植民は力の現はれであり、社会群は自己の統治、文化、種族的生命の優越による支配感を有するものせば、植民社会群が他の凡ての社会群を自己の傘下に統一して一世界國を建設せんとするの理想は、それ自體論理的なるものあるに似たり。併乍ら被征服社会群も亦その獨立的集團意識を有するが故に、全く之を滅滅するにあらざればその反抗を免れることは出

来あり。而して征服によりて絶滅せられたる
、或は絶滅せられ得べき民族種族のめきは強
い。種族的意志の域にありとも見らるべき弱
小の土の直に於ては、多くの被征服社会群は征
服者の壓迫に拘らざり人口増加し、少くとも數
は統一の社会的威力を有し、且つ如何に

791

(*) ATHENA (*)

本國の利益の爲めに他國を侵略せしめんと
 する政策によるもの(極端な破壊的搾取主義にあつた限りは)
 (法外) 他國の領土を占領し、高味原住者の文化的地位
 を奪はうとする。即ち従来主義的の地
 主政策は自己に反抗すべく原住者を養育しつ
 ゝありと言ふことを得やう。未開な他國の地
 の原住者もかくてやがて他國の政策に對す
 る反抗を有効に貫徹し得るの實力を得てお
 ろう。列を以て立ちたる者は大列を以て七
 五。 他國の領土に侵入して萬色人種の擡
 頭を恐怖し、且つ黒色人種の將來に對して恐
 怖を感じたるの論者輩もいた。白色人種は過去
 五世紀に及ぶ。黒人種は永久の間に
 ありて東洋に他國に及ぶ。黒人種は如何
 なる擡頭を行へるかを考ふべし。この恐怖の
 素は吾等の報酬と言はぬはなからぬ。ある
 う。名も世界が永久の間に白人種の支配に服
 せぬはなからぬとせば人類の歴史は簡單平凡
 なるが、物は感謝するものなり。事案はあ
 りあると。侵略せしむるものは己れ自ら侵略

792 植

するの目と豫想せしめらる。各(社会)の独立
 的生存の要求は、従来の政策的他方政策的
 實現と不可能ありしむる。こゝから。

2 同化主義の政策は各社会群の血液又は文化の融合をその理想とする。從
 屬主義による統一が形式的なるに比して之は實質的である。故に若し實現すれ
 ば最も鞏固なる統一の結合の社会たるべきである。

同化主義の理論的根據は、世界の各種族は本
 来根本的の差異ありにあうかゝる環境の結果
 であるが故に、環境の変更によりてその種族
 的特徴を變更し得^{しといふ}あり。然^れ種
 族的特徴の近似程度に依りて同化は難易の差

を呈する。併^し乍ら^は同化可能なりと
 ても其數万年を要すべき過程であつて、政
 策を以て實現を期し得べきところはない。却
 つて短期間の成功を期待する同化主義的政策
 は、他方他方位者の反抗を惹起するであらう。
 何と云へば同化の強制は、原住社会群の獨立^{的生存}
 生存の要求、集團意識を傷つゝるが故に。
 よひ外的生活上の同化は、ある程度に實現し得
 るべくするも之を以て集團意識の融合^{を連断}
 すべきかゝるは言ふ迄もない。且つ種族的差

79.9
 種

(4) ATHENA

別的存在として、環境の結果に帰する同化
 主義の理論的根拠は、同化主義の實現
 現可能性と裏切らず、何と云へば、地球上の各部
 分平均一する自然的条件に置かれざる限り、
 各地方に分位する人類の集團はかりに一度は
 同化するとも、やがて再び異なる大に種族的
 特徴を帯び来るべきに故に。之等の故に同化
 主義的植民政策の實現も理想の實現可能性
 は否定せられねばならぬ。

3 自主主義の政策は、各社會群が獨立の (Group Personality) (Christlich-Philosophische) 下に能ふ限りの發達完成を遂げ、しかして相互間の協同提携によりて人類社會の世界的結合を完くするを以てその理想とす。自主主義は必ずしも各社會群の平均化を意味せず、又個性を没却するものにあらず、たゞ獨立の社會群相互間に於て鬭争的狀態に代ふるに互助的關係を生ずるを理想とするのである。

自主主義植民政策の實現するときは、植民に
 關する壓迫も強利もなく、各社會群生存の必
 要は完全に調和せられ、植民地領有關係の成
 立と見直しと一かゝる實質的植民の實現(受生に)行され
 得るにあらう。各社會群の独立的集團意識の
 存在は社會學的事実であつて、之を無視し侵

1) Troeltsch, Christian Thoughts, P.55-68.
 McDougall, Group Mind.

11
 994
 植

自主主義

(*) ATHENA

實するすべしこの政策は初府完全は世做され
 い。しかるにこの独立的集團意識の一特性は
 排他性である。文化独立性の當然の要求であ
 る。一か七社会は結合によりて存在し維持せ
 る。自主独立は結合するがため自主独立しな
 ざるが故に。社会群は相互的の結合する一面
 あり。社会群よりして個人が社会内にありし
 めて生存し得る如く、社会群も社会群社会内
 にありし故に生存し発展するを得る。自由
 なる諸国家の聯合（"Föderation freier Staaten"）
 「国際聯盟」（"Völkerbund"）は永久の平和實現に因
 こカントの置きたる一要件である。しかる
 はかくの如き自主々義政実現の可能性
 は果して存在するであらうか。此項に於て其
 を考察するに
 三 三 三

排他は結合の破
 壊である。故に
 自主独立の侵害を
 受けるが故に
 結合する。結合の
 必要は結合に在
 る。何と云ふに

自主
 義理
 實現の
 保障
 カント

カントは自主国家の聯合による永久平和の
 保障を「自然」（Naturan）、「運命」（Schicksal）、「神意」
 （Vorsehung）に求め、就中「自然」の概念は最も重要
 である。探究に最も適切な概念となつた。彼は
 永久平和に因する「自然」の準備は、地球

795

1) Kant. 前記. S. 691.

上凡この部分（は）人類の生存に必要の設備
 せられこのこと、（二）人類を以て戦争によりて
 地球上各方面に、最も不平等な部分にすう、
 馳り立て其地に居住せしむること、（三）此事
 により又人類の多少秩序の回復に入る
 を餘儀なくすべしと云ふこと、（四）を答へ
 予手り果して地球に於ては、（即ち）各國家
（或は）その支那は全世界をも征服せんとす
 欲を有するに拘らず、自然の欲するを以て
 異り、各々族を分離してその混合を妨げ各特異

的存在を任有せしむ。上は自然の智慧にあ
 りが同時に、自然は各々族を結合せしむる力を
 有す。その力は暴力と戦争との能はざるを以て
 二、相互的利益に（*wechselseitigen Interessen*）
 非暴力即ち商業的請求（*Friedelicheit*）にあり
 貨幣権力（*Geldmacht*）は各國民に迫りて尊
 さ平和を助長せしむ。かくして自然は人類性
 情の機構を通じて永久の平和を保障する、と
 は勿論平和の将来を預言するに足らぬ保証で
 はあり、可實際的見地に於ては十分であり且つ平和

796

14

自由主義
経済
平和

799

植

一組帯たるは早く指摘したるはカントやス
 経済的交通関係の接近は国民結合の有力な
 こととはカントも同様である。
 己心に基づく経済的結合を以て平和の保障と為
 の結帯たるべきものあることを主張した。利
 用民に於ても商業は自然的には競争と友誼
 の結帯たるべきものあることを主張した。利
 己の精神の排理を排し、個人間に於けるのみ
 の作用により他人の相互的利益を以て調和結合
 せざるは、^{この思想に基く}彼は至高主義の排他
 的精神の排理を排し、個人間に於けるのみ
 たるは「攝理」若くは「見えざる手」(invisible hand)
 の作用により他人の相互的利益を以て調和結合
 せざるは、^{この思想に基く}彼は至高主義の排他

2) Smith, A. Wealth of Nations. Vol. I. P. 421.
 3) Smith, A. 同上. P. 457.

スミス

15

(4) ATHENA

貸進を以て義務と為すものではない。
 カントは永久平和の保障を以て「自然」の定り
 ぬべきに、殊に「諸国民」の「経済交通関係」の必
 然性
 に依りたるを認知する。
 アダム・スミスの自由放任説の根據も亦攝理
 自然的自由の思想に置かれる。各人各自己
 人の利益を最もよく知るが故に各人はその利益
 心に基きて行動するときには自己最大の利益を
 得るのみならず、社会全体として見ても最大
 の利益を得るものと為した。彼がかく解し得

1) Kant, J. Zum Ewigen Frieden. 前出. S. 679-688.

須

ミスの卓見である。併作ら^(自由あり)維持維持の結合を
 以て平和の保障とする事^(合理的見地に於ても)の、不十分なるは、
 今日に於ては多くの論議を要しな^(論議の)いであらう。
 例へば英独兩國の貿易額は増進^(論議)し、^(五の論理に従は)富強は
 自國の通商上の利益であるから、^(五の論理に従は)兩國間には
 益々平和的結合が鞏固な^(論議)るべき事であるが、
 かくの如き^(論議)諦想の一大^(論議)影人とも暴露して
 兩國は世界大戦の中心勢力として^(論議)の富と人
 命と智識と^(論議)憎悪とを盡くして相戦つた。何ぞ
 故であるか。^(論議)兩國間の貿易は西國を結合する

けしきも 第三國に^(論議)對する貿易は關係に於て
 は西國互に競争するが故である。而して世界
 が英独兩國に分割せ^(論議)るべき限り、その餘り
 世界部分に於ける^(論議)兩國の競争は西國を超越する
 取組結合より^(論議)大なる勢力がある。^(論議)例へ
 ば英獨と埃及との經濟的關係と見ると、兩者
 はとり貿易に^(論議)より相互的に利益を得たこと
 平和的に結合せ^(論議)るべき事であるが、^(論議)
 埃及の^(論議)特立的地位を認めざるは^(論議)故もその政
 治に干渉し、西國間に^(論議)競争絶えざるは何の故か

15

798 植

独(一)の
無争と
平和

世界的
在法本
主義

すへきである。以上三つの理由に於て「資本主義
 的精神」による結合は永く平和の保障と必ずし
 不十分であると知る。
 歴史的發展の予言も亦本目より自由放任
 主義の根柢より自由競争の非平和性を示した
 競争は独占を生ず、独占は支配を生む。而
 し公平性は競争に基かざれば却りて結合
 存する。資本主義の資本主義の発展は力に
 及らねたらんとの形式とつた。是に於て
 有資本主義の結合は、独の結合に
 以てする競争は即ち帝国主義である。現存は
 帝国主義の時代、独の結合に於て
 あり。資本主義は内部に於てこの独の
 傾向は世界的に擴張せしむ。世界的独の資本
 主義の下に世界経済の一の意志によりて即ち
 されしに至るのちあるか。
 カウツキは「独の結合」に於ては、独の
 傾向の如く世界は帝国主義の次に超帝国主
 義 (Ultra-Imperialismus) に至るべく、独の
 的金融資本の争闘の代りに、世界的金融資本

17

600
植

S

による全世界の共同の権取の到来の可能なる
 と主張した。しかるにレニンは力なりつキ
 のこの意見を^{に於て}当分の論敵としし次の如く反駁
 した。『若し^{に於て}純粹の経済的立場を以て一の純
 粋なる抽象と解すれば、その論旨は要するに
 発展は^(世界)独占世界つラストの^{如く}巨方向に動くと
 いふことは帰する。それは疑なく正しいが、
 併作と同時に^{価値}無価値なる。若し二十世紀初
 頭に現れたる一の歴史的具体的時期として
 の^を発展する時代の純粹の経済的条件^を作らば

するならば、^{「超帝国主義」の起せし抽象の代}
 りに近代世界経済の具体的^の現実と^を争ふ
 事は^{世界各國の}最善の回答を得べし。……この^{世界経済の}現実、即
 ち^{世界各國の}経済的^の条件の甚かに多様性、各國
 の発展段階の間に存する不均衡、及び^{帝国主義}
 列強間の^の狂暴なる闘争——之とカウツキ
 の「平和的^の超帝国主義^の思想」と^を對比して見よ
 1. カウツキ——^の超帝国主義の萌芽^をと^を
 認むる^の國際カール——^は是れは右の^の現實に照
 して考ふれば^の世界の分割及び新分割、平和的

401

分割より非平和的分割へ、~~或は~~或はより逆なる
 推移の一側を示すものはありか。……金融
 本及びワラストは世界経済の諸部分の発展段
 階の差異を減ずるものではなく、却て之を強
 める。併作らざる勢力関係が変化せる場合、
 本主義の非平和にありては権力によりて何に
 よりてその衝突が解決せらるるか。
 二十世紀初頭より今日に至る世界経済の現
 在的状態はレーニン¹⁾のいへる如く発展段階を
 異にする諸国民国の競争及び拮抗地による
 強国相互間の帝国主義的競争によりて特色づ
 けられる。故に現実の政治関係——例へば階
 級闘争~~に~~に基き、帝国主義国民国に対する世
 界の階級闘争の政策的見地よりせば、所謂超
 帝国主義的世界独白の如きは問題となり得
 るであろう。併作らざる現実を基きて将来を
 考察するに、¹⁾レーニンの精神及び
 組織が如何なるより、~~その~~その発展を促し、
 的独白に及ぼす傾向と観取するは、~~その~~その
 有意義とせしめられべきあり。レーニンは政

1) Lenin, N. Der Imperialismus als jüngste
 Etappe des Kapitalismus. S. 95-99. 青野季吉訳、
 資本主義の発展と帝国主義: P. 158-163.

19
 409
 植

治と経済とを分離観察するの不可有と視る
 尤もこの抽象的⁽¹⁾な結果は世界独占の發展
 傾向を認めべしとするも、現実に経済的状況
 の諸条件の甚かに多岐性を有する諸國家が、
 世界的統一の系統の中に調和的に並立する
 ことと否と不可有なりと有するものあり。
 世界的独占の⁽²⁾成立ありとするも、これは到底継続
 し難いであらう。何と云ふは、二つのいふ
 邦々各國が互に政治的経済的条件の異なる以上
 凡この國々が永久的に同一の独占組織内に統

2) Lenin. 同上. S. 94.

一とすると、これは不可有であらう。各國が
 同の勢力關係は固定靜止の在るを得ず、刻々
 に成長し發展し即ちその速度は⁽³⁾異なる
 格とあり、二、は独占組織の改訂⁽⁴⁾に關
 する現出⁽⁵⁾し得る。レニンはいふ資本主義の
 下にありては⁽⁶⁾調整するものは大い権力あり
 るのみ、暴力ありのみと。即ち資本主義の下
 に在る世界経済の平和的統一も亦否定せら
 れるべきあり。

資本主義

803
校

資本主義は世界経済の平和的統一

大債務すもや。社会主義者かこれを主張し肯定
するは当然である。独自の資本主義は前述の
如く、資本主義的強國が資本主義的弱國、若
くは非資本主義的諸國と統一支配するもの
であるが、弱國が強國となり、非資本主義國
が資本主義國に発展することにより、而し
これは資本主義的排斥の当然に對するもの
である結果である。右の独占的支配關係は内
部的に崩壊する。加之、資本主義的排斥は
非資本主義國を資本主義化するにあり、

資本主義的強國の崩壊を生むべき必然
性を論じたカトリック・ホルツェンバウ
グは、彼等はその資本主義的排斥の結
果として、

「資本主義は擴張的の力を有する最初の經濟的形式、地球上に延長せられ、
他の凡ての經濟的形式を壓迫し、他の如何なる形式の共存をも許さざる處の
形式である。それは併存と同時にそれ自身單獨に、他の經濟的形式をその環
境及び榮養として持つことなしには存在するを得ざる最初の形式、即ち世界
的形式とならんとする傾向を有すると共に生産の世界的形式たるには内在的
に無能力たることにより自ら打ち砕かるゝ形式である。それはそれ自體一の

活ける歴史の矛盾であり、その葛藤運動は比
の矛盾の表現、と此の絶對的解決のあると同時に
はまたそれと強める。一定の發展階段に於て

404

はこの矛盾は社会主義の原則の適用によるもの
 外は解決せしむを得ない。社会主義は本来世界
 的形をたると共に、自身一の調和的組織た
 るところの経済的形をたつてある。存せざるは
 は其結果を目的とせしめ、全地球のあらゆる生
 力の発展にすし、皆御する人類自身の生活の必
 要を満足するを念とすべしとありしと。
 資本主義と同く、社会主義は世界経済の發
 立を要する。地球上各部の経済的利用の善く
 人口及信託の世界的移動の自由を以て行はる

D. Luxemburg, R. Akkumulation des Kapitals,
 S. 445-446.

生産及び消費の世界的分配が統一規律せし
 ることは、社会主義経済の在りしに實現せし
 る所以である。社会主義経済の下にありしと
 異なるのは、必要及び便宜は益々感ぜらるる
 故にあり。而して資本主義は搾奪であり支
 配であり、葛藤にありしに反し、社会主義は調和
 であり共助であり、必要満足にありしに反し、
 搾奪及び葛藤が各国民の平和的結合を生む能
 はず。調和共助の必要は、平和實現の實現を
 するに必要とす。平和實現の實現は、社会主義

405
 植

Roy

24

得的政治的諸条件を具にするに於て平和的
 結合を實現せしむるの保障を有するやは、之
 を別に論じなければならぬ。

一例として英國と埃及との關係を以て見やう。
 埃及が棉花の栽培地として英國工業の必須原
 料を供給するに於ては資本主義たるは、社会主義
 なることも同じである。経済発展のためには望ま
 れる。生産条件を異にするに於ては地方の経済
 的結合は人類生産増加のためには最も有意義な
 である。そのために英國の資本及び技術の移入は

合には労働力を埃及と他の地域に投せざる
 べし。これは認めせしむるに於ては、
 経済的結合は有種の友誼的にして強利採取的
 である。これは言うに及ばず。中東の英國の
 経済的結合關係は、この口を以て、一資本家の
 後進回中採取の前提の下に於ては英帝國を構
 成せる諸地方の経済的結合は不可能である。
 帝國は先づ破壊せしむるに於ては、然るに後社
 会主義の基礎の下に於ては、
 現在の産業組織は有種体

23

406

値

可、資本家の所有より解放せしむる保存せしむる
 一は望まざればならず、^{この或る}二は英國資本階級
 の信用國民の信頼と博し得るの能力如何に關
 する。其國と自發的經濟共同體に改革
 せんとする希望は、帝國主義的侵入によりて
 醸成されたる政治的及民族的不信^の存在下
 の限り實現不可^{なり}である。自由國民の共同體
 體 ("Commonwealth of Free Nations") に關して語らる
 る、^の或る程度に及ぶ信用せしむる事
 事は尤も至極である。其英國政府の植民

地國民の自由に対する要求に對し、英帝國上
 の金融脱却する體面に至るまで、無條件の
 援助を無^し得ずし、如何にして種^の植民地^の善意
 に關し、彼等植民地人の信頼を振り得るか^か

新は右の議論の中に、實質的植民地の必要と、
 其の完全なる實現のなかに植民地人に對する
 強制的支配の不可なる所を^の認識^を得る。か
 の如く既に植民地地位者の信頼を得ること
 ありて有様的な経済的統合と期待すること

1) Roy, M. N. The Empire and the Proletariat.
 (The Labour Monthly, Vol. 7, No. 1, Jan. 1925, p.
 22)

24
 807
 植

国際連盟

は不可能である。かくの如き信頼が社会主義の下に成し得らるゝと見るには、如何なる確実性があるか。抑させば資本主義の文脈は地人をも反抗せしめ、社会主義的文脈は地人地人を信頼せしむと見る所の論拠は如何なるか。

最近の世界大戦は地人問題に因りて二つの大なる事実を生じた。一は国際連盟であり、他は英帝國の結合關係である。国際連盟は自主独立國民の聯盟である。少くともその精神の理想とするは自主獨立國の協同による世界經濟の實現にある。而して英帝國の利益は如何なる印度亦、南洋地帯の利益は如何なる諸島小國と若くは南洋聯盟の一員と認めらるゝ以上、少くとも理想に於ては平等地帯に對する他より優越した關係を排除するものありと見る。而してトルコの領土中を離れ、地方及び領土の回復に對しては征服國の態度を認め、國際聯盟の責任は治地城

と一とを國際の内容は聯盟の責任は治地城

408 植

他國の中に於ては内閣府の権限を擴張するの事
 ありしに、原任高に於ては保護後見の
 義務を負ひ、以て自主獨立の地位に達せ
 ざらざることとを要求して居る。議院は、この事
 際聯盟の一員たるに過ぎず、諸民族、即ち
 拒否地、^{はすべし}トルコ領土及び
 イワ拒否地と若くは一掃に國際聯盟の委任統治
 に服せしむべしとの主張をへるがためなりとあり
 たる。自主獨立の聯盟、而して後進民族に對
 しては聯盟の保護後見により之を自主的國民

の地位に向上せしむ、之れが國際聯盟の理想
 的職能である。一かゝる實際に於ては聯盟の組
 織に於て、委任統治の規定に於て、多大の不
 徹底を暴露し、特に弱小國の立場より見れば世
 界的平和の實現に資するに國際聯盟の保障は有
 るべき實の感があるにあらざる。而して、^{世界平和の理想}
 多く、^{世界平和の理想} 國際聯盟の理想に達せんとす。同
 様の事はありまい。何の故に斯くの如き不徹底
 を生ずるか。是は各國が政治的経済的發達の
 程度を異にし、而して強國は強國として、弱

809 村

28

27

610

因は諸國として相對するが故に外なるない。

英帝國は國際聯盟内の五強時盟、五強時盟

の結合更に華國をもつて見ざる。ドミ

ニオは一つの日五國にありて英帝國は之に

対し地味地味有關係と有するものではない。自

主諸國の自主的聯合、之が英帝國の組織の

共同關係である。併して英帝國も亦その諸國內

の永久の平和を維持するの確実性を有するや

否やは、^{自明である。}第一に自主國の間の經濟

的關係は常に互換的であり得ない。第二に帝

國構成部分たる地位を占めざる諸植民地の不

利益の利益と自由とはたゞ帝國內自主國の

「善意」に依るす外ないからである。先づ帝

國內自主國の間の關係について見ると、その

相互の經濟的摩擦は必らずしも^{その各々の}國家

的競争によりて生ずるものではない、^帝帝階級

といふものは相互の間に於てもその利益は必らず

も常に同一でない。一九二五年七月二十七日

より八月一日に至る間に倫敦に於て英帝

國帝御使及公使御使の第一回會議が開催せ



され左。その会議にて論じられし同義の事
 最も困難なりし事も一の南阿聯邦に能け
 る印度人の待遇に關する印支常御者側の抗議
 正あつた。南阿聯邦常御者の代表者は更に對
 し印支人の生活程度を傳へ故白人常御者は之
 と競争する能はずとの強辯的理由を以て
 抗辯した。而して他の諸小常御者代表者は輪
 して作りし印支南阿兩者の争論を傍觀し左る後
 此間には印支及南阿の常御者代表者
 會議を協定して解決すべきものと爲し、もし

此れに決定せざる時は一九二七年に開か
 るべき第二回大會に於て更に討論すべきものと
 しし物別れに爲つたといふ。更に此の大會の
 向義の一は英國よりドミニオンに於ける移民
 に關するものであつた。英本國常御者側は曰
 く、ドミニオン側はその土地に移民收容の餘
 地無しといふことを認めない。ドミニオン常
 御者の英本國常御者側は同情甚だしき
 と。力加及んば海峽の代表者は更に對して、
 彼等は英本國常御者側の現状を知る不故に、

28

29

611

111

29

812
植

各階級は排他的なものである。人口の増加に伴い、
 労働階級の利益を占めようとする傾向が、
 資本家の利益を侵食するに至る。これは、
 社会主義者には、
 社会主義の實現は、
 労働階級の利益を保障し、
 資本家の利益を制限する
 ことである。今假りに社会主義の世界的實現を

階級闘争
と民族
闘争

(+) ATHENA

30

この如き状態の自国内に発生するを禱防する
 必要は、
 資本家の利益を保障し、
 労働階級の利益を制限する
 ことである。而して此の向は
 資本家の利益を侵食する
 ことである。今假りに社会主義の世界的實現を

1) Labour and the Empire (The Round Table, No. 61,
 December, 1925). Report of the First British
 Commonwealth Labour Conference, 1925.

見得るといへり。社会主義は組織せられざる
 経済を^りより^りの故に、世界社会主義は世界
 的に組織せられざる経済を^りより^りの故
 而して社会主義の下に於て^り国民の有様の
 経済生活の可成りとする理由は、階級闘争
 の普及階級

の勝利によりて終れば、之によつて國際間の闘争も終止する、何となれば
 萬國の無産階級は經濟的共通の利害關係を有するが故に相互的に相掠奪するの
 理由がないからといふのである。果して然るか。自然的生産條件を異にする世
 界の各地方に分住する社會群が統一的經濟の支配に服従し、人口及び財貨をば
 有無相通し相助けて、人類そのものの生活の必要を満足せしむるは、自明の事
 柄に^りあり。各國民の經濟的政策的條件の

異は、社会主義の下に於ても、各地域の自然
 的条件と各社會群の歴史的条件^り異^りに^り
 存続するものと認めらる。資本階級の
 有様の一致結合を^り此の理由によりて否定す
 る^りは^りな^りか、如何^りにして^り社會主義階
 級の有様の一致結合を期待し得るか。すべて
 絶対はその資本主義の下と社会主義の下と
 とを^り同^りと^りす^りべ^りく^りな^りか^り、^り必^りず^りな^りか^り、^り服^り従^りと^り前^り提^り
 と^りす^りべ^りく^りな^りか^り、^り服^り従^りは^り有^り様の^り結合^りと^り未^りだ^りと^りす^りべ^りく^りな^りか^り、^り統
 制は^り必^りず^りな^りか^り、^り範^り圍^りに^り於^りて^り了^りす^りべ^りく^りな^りか^り、^り犠^り牲^り自^り捐^りを^りば^り能^りす^りべ^りく^りな^りか^り、^り階^り級^り闘^り争^り

819 行

於ては ^{性質} 存在が却つて相互扶助的の必要
 満足 ^{性質} が発動するものなりといふにあり
 ・ 此見解の思想的根拠は唯物史観に本づか
 る。 ^{（社会関係）} ^{（社会関係）} 社会関係の变革と共に社会の意識状態も
 亦変動すと。 ^{（之に應じて）} 社会生産関係の变动は之に對應
 する変化を以て社会の政治組織官僚組織或は意
 識の形式に及ぼすことは認めらる。 ^{（併下）}
 人類の性質とのより ^{（本質）} ^{（本質）} 社会的に社会生産関係
 多くは社会組織の变动 ^{（上層）} ^{（上層）} 變動し、 ^{（社会）} ^{（社会）} 社会に
 ありて決定せらるゝとの事は、事實によるも

思想による ^{（之）} ^{（之）} 真理なりといふを得ない。 或は
 各人 ^{（之）} ^{（之）} 各々との必要を満足せられ互に他と競
 争するの必要なき理想的富裕の状態に於ては、
 利己的營利心は全然存在の理由を失ふこと
 が為れ ^{（之）} ^{（之）} 得る ^{（之）} ^{（之）} 前 ^{（之）} ^{（之）} 出 ^{（之）} ^{（之）} とするも、斯く
 の如き理想的必要満足状態の實現とありが
 利己的營利心の制限廢止を前提とする必要が
 あるにあらざる。 共同扶助必要満足の原理を各
 個人の平和的結合の基礎とするは認めらる。
 併下 ^{（之）} ^{（之）} 社会主義のこの平和的結合實現の保障

815

植民地
の現実と
理想

であるとは、私は是認するを得ざるを得ぬ
 自由競争の資本主義に、独自の資本主義に
 対し、^{カシ} 而して、社会主義にも諸國の平和的競争
 に固する保障力なきことを認めざるを得ぬ
 こと。

翻つて本書に於て述べ来りし現実植民地政策
 の研究に於て、如何にその能力のあらはれ
 あり植民地の利益中心主義であり、従つて原
 住者の利益を受けざるを得ざるかを見たい。植
 民地政策の露骨たる従来主義より次第に保護的

816

相互共存主義を標榜するに至るは植民地史の
 示す予定上の傾向である。併作らるるも植民
 地固有統治関係の存続する以上、植民地政策の
 現状は社会群對立の故に私慾偽善の混濁たる
 状態を免れずあり。露骨なると被けぬるの差
 別あるのみならず、植民地政策は植民地若くは植
 民地の利益を主眼として、或は徳義的に或は
 保護的^保に植民地を利用し支配せざるを得ぬ
 ことである。

植民地政策を以て植民地固有統治に固する政
 策ありと解せんか、一植民地政策を行ひつゝ、し

かもこの暴力的方法と除去し得べしとは、
 両月に批判す邦に値せたる妄想である。11) 何と
 せんは外來者との支配、之にまさるの暴力性
 の故である。セリスは^各種種々の歴史的研究
 の結果に於て「~~種~~種々の^種種々の表現に過
 さい」と言つた。實質的種族に對しては正にそ
 の通りである。解つた形亦的種族即ち種族他
 の領有統治關係に於ては、その決一^{本質的に}の
 宣布者にあらず、原住民はより之を信託と
 感謝とを以て迎へしむるを知らぬのである。

1) Hilferding, R. Das Finanzkapital. S. 428.
 2) Morris, H. History of Colonization. Vol. II. P. 321.

却つて原住民は實質的種族の效果によりて
 の文化向上すると共に、形亦的種族に反抗し
 て自主的地位に到達すると思ふ。かくして種
 族地と本國とははたや領有支配關係に基か
 ざりて孤立的關係にもあらず、自主的統
 治による一大共同體たるの^但織を實現する
 こと、英帝國の示せる傾向に赴くことは、近
 世經濟^の發展の一大陸皆地城の基礎を要求す
 るによりて適宜に推察し得らる。しかも自
 身の強固な關係は必らずも實質的種族の完全な

817

34

説明
ターゲット

この原本
は、破損の
まま撮影し
ます。

ATHENA (4)

かくの如き 自主的結合は植民地本國連結の
 基礎たるのみならず、集團的人格の尊貴
 を尊重する社会的正義の要求するものである。
 人格尊重なる要は正義なく、正義なる要は平
 和もない。人格尊重は愛であり、愛は犠牲で
 ある。故に利己心を基礎とする功利主義を
 以ては平和は来さない。而かも個人及び社会
 群のその私利心を抑制し愛他心を發揮するに
 至るべき保障は何處にあるか。現実も、現実
 に基く將來の豫想も此の保障をよへない。自
 主義植民地管理思想の實現に対する確信なき
 保障は思費的にも歴史的にもよへない。
 左の一事は確かである、即ち人類は之に於て
 希望を有すること。虚偽なるもの解
 放、沈めるもの、向上、而して自主独立なる
 もの、平和的結合。人類は昔し望み今望み將
 来も之を望むであらう。希望あり、而して信仰
 あり、私は信する平和の保障は「強き神の子不折
 の愛」に在ること。

大正五年二月九日
三月一日

1) "Strong Son of God, immortal Love,
 Whom we, that have not seen thy face,
 By faith, and faith alone, embrace,
 Believing where we cannot prove." — Tennyson,
 In Memoriam.